

世田谷区立給田小学校

学校運営委員会通信

平成25年度 第7号
平成26年2月3日
世田谷区立給田小学校
学校運営委員会
委員長 井上健

地域に愛着を持つ子どもを育てる

～たくさんの地域の方がたに支えられて～

12月19日、校長室にて第8回学校運営委員会が行われました。

最初に、杉山校長より近況報告がありました。11月に行われた「展覧会」は、保護者へのアンケートでは概ね高く評価されているが、土曜授業が週連続したことに対する意見なども寄せられているので、そうした点を次回には検討したい。学校関係者評価アンケートについては、5・6年生に共通して『みんなの意見を聞く』『みんなが考える授業が楽しい』と感じている児童が多く、『コミュニケーション力の育成を重点目標にしてきた成果を感じている。アンケート結果は、学校関係者評価委員会でも分析し、2月頃にみなさんに報告する見通しである。』

次に、安部主幹教諭から「最近、決められた通学路で下校していなかったり、道路を数人で横に広がって歩いたりしている様子が見られたので、教員が通学路に立つて指導をしている」と報告されました。

鶴岡主幹教諭からは「5年生の『Q-den Walker』(給田ウォーカー。以下、QWと表記)を作ろう』の授業では、30か所の訪問先で地域の方がたに協力いただくことができた。

議題 第8回運営委員会

1. 校長より
 - ・展覧会のアンケート結果
 - ・学校関係者評価に関連して
 2. 安部主幹より
 - ・児童の下校状況について
 3. 鶴岡主幹より
 - ・Q-den Walkerについて
 4. リエゾン・オフィスより
 - ・Q-den Walkerの報告
 5. 井上委員長より
 - ・来年度の活動について
- 出席者 井上、田中、芝崎、程原、溝口、増本、椿、杉山、安部、鶴岡、リエゾン・オフィス

第9回運営委員会

議題

1. 校長より
 - ・次年度にむけて
 2. 副校長より
 - ・リエゾンへの要望
 - ・次年度のもちつき会について
 3. リエゾン・オフィスより
 - ・学校支援コーディネートについて
- 出席者 井上、清水、田中、芝崎、程原、溝口、増本、椿、杉山、片山、安部、鶴岡、リエゾン・オフィス

た。教員だけでは実現できなかった「リエゾン・オフィス」(以下「リエゾン」と表記)に感謝の言葉が述べられました。それに関連して、リエゾンからは「今年のQWは、たくさんの保護者が付き添いのボランティアとして参加してくれた。また、児童が成果を発表する時には、訪問先でお世話をいただいた地域の方もたくさん来てくださり、子どもたちの話に熱心に耳を傾けてくださっていた」とのお話がありました。

最後に、井上委員長から「今年度の委員会も残すところ3回。来年度以降の活動について考えていただきたい。仕事の都合などで月1回の定例会議に出席しにくい委員もいることを踏まえ、前回もお話したように、通信に書かれていることを深めていくグループ、委員会の今後の運営について考えるグループ、と2つのワーキンググループで活動してはどうだろうか」との提言がありました。

最初に、杉山校長より「来年度の委員会のあり方を考えていきたい」とのお話がありました。

次に、清水委員より、通信第7号について進捗状況の報告がありました。

また、年末に消防団が地域の夜警をしてくれていること、年始には烏山町奉賛会、給田隣子連のみなさんがそれぞれの地域で、獅子舞まわりをしてくれていることなど、地域のために活動されているみなさんに感謝が述べられました。

続いて、片山副校長より、2年生の畑での体験授業のコーディネート作業を作ろう」という取り組みがおこなわれていること、これは5年生が5・6人の班に分かると、「もちつき会」について、教員から「保護者の参観を可能出来ないか」との声が上がっていることが伝えられました。2年生の体験授業については、リエゾンから「年度始めにおおよその日程とコーディネートの内容を知らせてもらえば、お受けすることはできそう。ただし、12月に100本以上の大根を収穫させていただくには農家の方でも準備が必要であり、早めに日程などを知らせたい。他の学年のコーディネートについても同じ」との要望が出されました。「もちつき会」に関しては、千歳民俗資料保存会の副会長でもある清水委員から「保護者が『かけつき』を目撃することもできるが、現状で千人以上のもちつきについては量的には限界。保護者が食べる分までは用意できそうにない」との返答がありました。これらの件については、来年度始めに再度検討することとなりました。

最後に、井上委員長より「来年度の委員会のあり方を考えるためには、一人ひとりが委員として何をやりたいのか、やるべきなのかももう一度考える必要がある。組織化すれば継続しやすいが、時間とともに形骸化していく恐れもある。校長が替わり、委員が替わっていくなかで、給田小らしさを大事にしながら活動を深めていくにはどうしたらいいかを各自考えて欲しい」とのお話がありました。

5年生・総合的な学習の時間「Q-den Walker 給田ウォーカー」を作ろう

毎年、5年生の総合的な学習の時間に「Q-den Walker (給田ウォーカー) 作業を作ろう」という取り組みがおこなわれています。これは5年生が5・6人の班に分かれ、給田・烏山の地域にあるお店や施設、場所などを取材し、ある出版社から刊行されている雑誌「東京ウォーカー」のような地域を紹介するポスターを作り発表するという体験型の学習活動です。

学校からの依頼で、今年もリエゾンが子どもたちの訪問先をコーディネートしました。5年生の先生がたから、この授業のねらいについて、

- ・子どもたちが地域に愛着を持ち、地域を大切にしよとする気持ちを持つ
- ・取材を通して地域の方がたとの交流を深め、
- ・自分の住んでいる地域を、自分の言葉で表現できるようにする。

「現地を歩く」が、昔から、この地域でお仕事をされている方、給田小にかかわりのある方で、仕事のことだけでなく、この地域への思いを子どもたちと語っていただく、という視点で、30か所の訪問先を選びました。

10月29日には1組と2組が、11月1日には3組と4組と5組が、実際に訪問して取材をおこないました。

(2) (3) ページに連日記事

11月27日にはポスターセッション(発表)が行われ、前半と後半に分かれて子どもたちもお互いに発表を聞き合いました。ある児童は「8か所の発表を聞いて、どこも地域の人のために工夫していることがわかりました」と感想を述べています。この日は、取材を受けた側の地域のみならず来校され、参観の保護者や子どもたちと一緒に発表を聞いてくださいました。



地域振興課・渡邊さん

鳥山総合支所の人たちがどのような仕事をしているのか予想が付きませんでした。鳥山総合支所は鳥山地域の中心的な場所ということがわかりました。これからは鳥山(給田)や世田谷の多くの行事に参加したいと思いました。

鳥山総合支所



大戸典夫さん

見学を終えて、自転車にはいろいろな部品があり直すのがとても大変だと知り勉強になりました。自転車は気軽に使うものだけど、店の苦労がたくさんあることがわかりました。自転車のことをもっと知りたくなりました。

サイクルショップノリ



工場長・安井さん

工場を見学して、コンクリートの材料の量を調節して硬さを変えていることにおどろきました。微妙な調節をして200種類ものコンクリートを作っているそうです。運ぶ時も固まらないように90分以内に運ぶそうで、とても大変だと思いました。

空コンクリート



麻生則行さん

今私たちが通っている給田小学校は、みんなの協力できているとわかりました。なので協力してくれた地域の人に感謝したいと思いました。

分農秋・麻生さん



杉田明彦さん・竹村敏彦さん

私は畑に行き、野菜の安全や美味しさを考えてさまさまの工夫がされていることがわかりました。野菜作りにはたくさんの工夫や苦労があるのだなと思いました。自分がもし仕事をするときは、相手の事を考えながらできるようにしたいなと思いました。

杉田さんの畑



店長・行徳さん

京王メガネセンターの方たちは、私たちの質問に対してとても丁寧に説明してくださいました。お店で働く方がたの優しさを学びました。

京王メガネセンター



林光男さん 林郁子さん

私たちの質問にやさしく教えてくださいました。クリーニングのこともたくさん教えてもらいました。林さんのやさしさや笑顔がお客様にとってはサービスなのだなと思いました。

林クリーニング



樋口先生 給田小1年目

4組

QWは初めてのことで最初はとても不安でしたが、子どもたちがこうして地域について勉強できるのはすごくいいなと思いました。自分が住んでいる地域にどうかわかっていくか、ということを考えてさせられた子がいて、これからは地域の行事とかに参加したいと言っていました。訪問先はいい方ばかりで、優しい人たちに囲まれて、子どもたちは幸せだなと思います。



チーフ・小松さん

ほくはJAファーマーズマーケットを見学して思ったことがあります。それは、一つ一つのことに心をこめて仕事をしていることです。将来就職してこういう所で仕事をするようになったら心をこめて働きたいです。

JAファーマーズマーケット



KEIO 千歳鳥山駅 Chitose-Karasuyama Stn. 助役・三浦さん

昔の鳥山駅の様子や、特色などがわかり、ふだんは意識せずに利用していた千歳鳥山駅ですが、興味がわいてきました。発表でのめあては「地域のことを発する」だったので地域のことを伝えられたと思います。

千歳鳥山駅



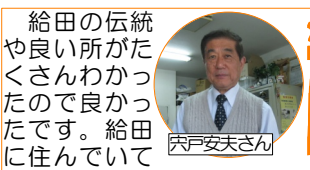
杉田洋一さん

杉田さんは、お客さん1人1人を大切にしていることを感じて心があたたかくなりました。自分も大人になったら地域を見守りたいです。杉田整骨院はなくてはならない存在だと思います。

杉田整骨院



「杉田整骨院班」の発表を聞く程原さん。林さんや京王メガネセンターの沖田さんも発表を聞きに来てくださいました。



大戸典夫さん

給田の伝統や良い所がたくさんわかったので良かったです。給田に住んでよかったなと感じました。会長さんはとてもがんばっているの、よい町づくりにぜひとも協力していきたいと思いました。

給田町会・町会



池嶋優子さん・恵二さん

ファミリーマートの事を調べてみてお店だから地域とあまりかわかっていないと思ってたけど、ずっと昔からお店があるから地域との付き合いが長いことにびっくりしました。

ファミリーマートあつらや



田部井弘子さん

1番に残ったことは、田部井さんは、みんなのためにいつもきれいなお花をつくっていたけど、ずっと昔からお店があるから地域との付き合いが長いことにびっくりしました。

ちとせフラワー



榎本先生 給田小2年目

5組

「給田のことを自分の言葉で伝えられるようになるといいよね」と言って授業を行っていましたが、子どもたちに伝わったようです。給田のいいところに触れた子もいれば、お店の方の人柄に触れた子もいました。協力していただいた地域の方が、ボランティアに参加してくださった保護者のみなさま、ありがとうございました。子どもの感想を見て「とてもいい活動だな」と思いました。子どもたちの成長が感じられました。



戸羽清治さん

ベルフォート見学を通して、「良い町にしていきたい」と思う人は、一人や二人ではできないことがわかりました。それをみんなに知らせていき、良い町にしていきたいことが大事だと思いました。

ベルフォート



程原剛さん

警察官の勇ましい姿を感じました。じゅうを持っている人に立ち向かえる強さやどんな日も立ってあいきつてくれる程原さんに感謝します。そして私は駐在所に行ったので交番のこともしらべたいと思いました。

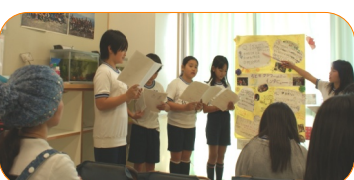
北鳥山駐在所



吉橋秀寛さん

お寺や寺町通りの歴史を聞くことで、奥深さを感じ、伝統を守りたいと思いました。地域のこともくわしく知ることができて良かったです。

妙高寺



自分のお店「ちとせフラワー」の発表を聞く田部井さん。子どもたちとの再会を喜んでくださいました。ベルフォートの戸羽さんも来てくださいました。

生産・漬料 浅野さんの畑で収穫体験

大切に育てた大根とにんじんを、10年生のために0本以上も無償で提供してくださいました。



浅野泰三さん

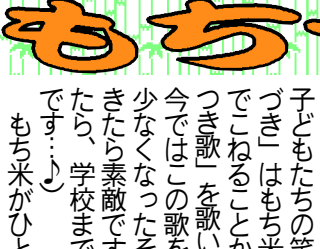
授業をしてくださいました。当日、たくさんの種類の野菜を持参され、野菜によって種を蒔いてから収穫できるまでの期間が違いうこと、変わった形の野菜が出来るのはなぜかなど、丁寧に教えてくださいました。いよいよ収穫当日。澄み渡った空からそぞく日差しに温かさを感じながら、子どもたちが畑に到着すると、浅野さんご夫妻が笑顔で迎えてくださいました。子どもたちの胸のあたりまで青々と元気に葉を茂らせた大根畑の前で「大根は手で抜いてはダメです。腰で抜きましょう」と浅野さんがお話してくださいました。先生がたがお手本を見せた後、子どもたちは畑に「列に並び、大根に負けないよう、足を踏ん張って引き抜きます。土の中から真っ白で大きな大根が表れると、歓声が上がりました。「うわー大きい！」「おれの方が大きいよ」「お母さんにおでん作ってもらおう」「豚汁も食



校長先生がお手本で大根を抜きました。「校長先生、頑張れー！」



続いて2年生の先生がたも挑戦。



先生たち、嬉しそう(〇)。

12月12日、2年生が生活科の授業の一環として、浅野さんの畑で大根とにんじんの収穫体験をさせていただきました。この授業は浅野さんのご厚意で、お子さんが給田小に入學した年から始まり今年で4年目になります。3日に浅野さんが事前収穫に先立ち、12月14日(土)、千歳民俗資料保存会とPTA共催による「もちつき会」が開催されました。前日の冷たい北風から一転、小春日和の日差しの中、何段にも重なった大きなセイロから蒸気がたか

1列に並んだらどの大根を抜くか決めて、



決まったら葉っぱの根元をしっかり握り腰を落とす。



体全体を使って…なかなか抜けません(〇)。



浅野さんと一緒に腰を落として、うーん…うーん…頑張た！



ありがとうございました。「ロケにお礼を言う子どもたちを笑顔で見送る浅野さん。

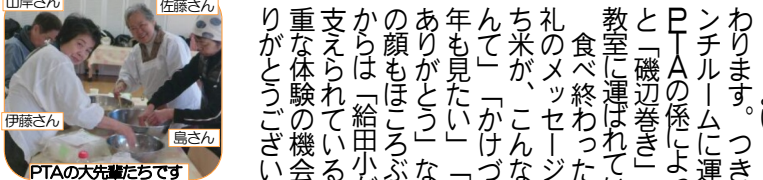


貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

もちつき会

ち上がる光景に、登校してくる子どもたちの期待も高まります。始めに、保存会会長の麻生則行さんのご挨拶があり、副会長の伊藤弘康さん(給田小子どもばやし指導者)の解説で1年生から各学年ごとに「かけつき」を見学しました。あつあつに蒸しあがったもち米の入ったセイロを目の前まで持っていくと、湯気を顔にあびながら「うわあー、おいしいにおい」「あつたかいー」など声をあげる子どもたちの笑顔が印象的でした。「かけつき」はもち米をつすに入れ、4人がぎねでこねることから始まります。昔は「もちつき歌」を歌いながらおこなったそうです。今ではこの歌を覚えていらっしやるかたは少なくなりましたが、給田小で再現できたら素敵ですね。(どなたかご存知でしたら、学校までお知らせくださると嬉しいです。)

東方で活躍・保存会女性陣



山岸さん 佐藤さん 伊藤さん 鳥さん

PTAの大先輩たちです

は、もちの温かさとともに子どもたちのふる里の記憶として心に刻まれたことでしょう。たかさんの地域のみなさんやPTAの手によっておこなわれた「もちつき会」も添えられていました。貴重な体験の機会を与えていただきましてありがとうございます。先生がたからは「給田小が地域のみなさんに愛され、支えられていることを実感しました」。

「学校運営委員会通信」に掲載されている写真(個人が特定できる)等を含む個人情報、ご本人の承諾を得て掲載しています。



学校運営委員 溝口よし子

丹精込めて育てられた大根とにんじんを収穫させていただき「何だか赤ちゃんみたい」と大事そうに抱える姿に「子どもたちに野菜を好きになってほしい」という浅野さんの思いがしっかりと届いたと感じました。

給田小から北に向かう通学路。黄色い帽子をかぶった男の子が小走りに帰り道を急いでいたら、躓いて前のめりに転んでしまいました。すると、そばにいた高学年の女の子たちが、「大丈夫？」と声をかけて起こしてあげていました。その様子がとても自然で「ああ、この学校の子たち、いいな」と思ったのが、今から14年前のことです。その時からずっと、私は素直な給田小の子どもたちが大好きです。

あとがき

学校運営委員の一員となり、さまざまな学校行事を間近に見させていただいています。子どもたちを見守ってくださる地域の方がたの温かさを感じています。保護者として、このように環境で子どもが育っていることに感謝しております。私自身も、子どもが給田小を卒業してからも、この地域に暮らす大人の一人として、微力ですが、地域の子どもの成長を見守っていくことで恩返ししたいと思っております。